

物語文にみるみる強くなる語彙 600 No151.~No.180

No.151 『しゃくり上げる』 ⇒繰り返し息を吸い上げるように激しく泣く。

[例文] 妹はよほど心細かったのか、私の顔を見るなり、しゃくり上げながら駆け寄ってきた。

No.152 『確執 (かくしつ)』 ⇒互いに自分の意見を主張し、ゆずらないことから起きる仲たがい。

[例文] 今となっては2人の確執を埋めるのは不可能に近い。

No.153 『ひところ』 ⇒それほど遠くない以前のあるころ。ひととき。

[例文] ひところの迷いが晴れて、今はすっきりした気持ちだ。

No.154 『格調 (かくちょう)』 ⇒芸術作品などに現れる品格や風格。

[例文] 骨董好きな母のコレクションには、格調高いものばかり集まっている。

No.155 『釈然としない』 ⇒疑念や迷いが晴れず、すっきりしないさま。腑に落ちない。

[例文] 彼の言い分はもっともだが、どうも釈然としない。

No.156 『斬新 (ざんしん)』 ⇒着想・趣向などがきわだって新しい様子。

[例文] そのアイデアはあまりに斬新だった為、最初は受け入れられなかった。

No.157 『違和感 (いわかん)』 ⇒しっくりしない感じ。また、ちぐはぐに思われること。

[例文] 彼のふるまいは普段と変わらないはずなのに、どこか違和感を覚える。

No.158 『奇抜 (きばつ)』 ⇒思いも及ばないほどすぐれていること。また、人の意表をつくほど風変わりなこと。

[例文] 奇抜な服装だったので、すぐに彼だと気づかなかった。

No.159 『卓越 (たくえつ)』 ⇒他をはるかに越えて、すぐれていること。

[例文] 卓越したリーダーシップを発揮してクラスをまとめ上げた。

No.160 『抑揚 (よくよう)』 ⇒調子を上げたり下げたり、また、強めたり弱めたりすること。

[例文] 彼の抑揚のない話し方が、逆に説得力を持たせている。

No.161 『きりもり』 ⇒物事をうまく処理すること。

[例文] 人気店なのに、たった一人できりもりしている。

No.162 『きれぎれ』 ⇒いくつも小さく切れていること。また、途切れそうになりながら、かろうじて続くこと。

[例文] 彼は毎朝、息もきれぎれに教室に飛び込んでくる。

No.163 『団欒 (だんらん)』 ⇒親しい人たちが集まってなごやかに時を過ごすこと。

[例文] 仕事で世界中を飛び回っているお父さんが帰ってきたので、今日は久しぶりの一家団欒だ。

No.164 『入り浸る (いりびたる)』 ⇒よその家や特定の場所に通い続けたり、そこに居続けたりすること。

[例文] お父さんは子供の頃、百円玉を握りしめて駄菓子屋に入り浸っていたそうだ。

No.165 『懐柔 (かいじゅう)』 ⇒うまく扱って、自分の思う通りに従わせること。

[例文] 彼はクラスメイトを巧みな話術で次々と懐柔していった。

No.166 『うずたかく』 ⇒物が幾重にも重なって、高く積み上げられているさま。

[例文] 彼の部屋には宇宙に関する本がうずたかく積み上げられていた。

No.167 『如才 (じょさい) ない』 ⇒気がきいていて抜かりがないさま

[例文] いつの間にか如才ないふるまいを覚えてしまった。

No.168 『軋轢 (あつれき)』 ⇒争いあって不和になること。いざこざ。

[例文] 家同士の軋轢のせいで、いとこと疎遠になってしまった。

No.169 『だいそれた』 ⇒常識・道理などから大きくはずれている様子。

[例文] だいそれたことと思われるかもしれないけれど、僕の夢はノーベル賞をとることだ。

No.170 『なりゆき』 ⇒物事が自然に推移して行く様子や過程。また、その結果。

[例文] やるだけやって、後はなりゆきに任せよう。

No.171 『けたたましい』 ⇒急に高い声や音が響きわたって騒がしい様子。

[例文] その時、けたたましくドアをたたく音が部屋中に響いた。

No.172 『まどろむ』 ⇒しばらくの間、浅く眠る。うとうとする。

[例文] 電車で揺られて、つかの間まどろんだ。

No.173 『逡巡 (しゅんじゅん)』 ⇒決心がつかず、ためらうこと。しりごみすること。

[例文] 逡巡しているうちにチャンスを逃してしまった。

No.174 『織りなす』 ⇒織って模様などをつくる。また、様々な事柄が絡み合っ変化のある物事をつくり出す。

[例文] いくつもの音色が織りなす彼らの演奏に圧倒された。

No.175 『躍起 (やっき)』 ⇒あせってむきになること。

[例文] 彼女は躍起になって自分の主張を繰り返した。

No.176 『辻褄 (つじつま)』 ⇒前後に矛盾のない物事の筋道。

[例文] 何かを隠しているのか、彼の話はどうも辻褄が合わない。

No.177 『あり余る』 ⇒必要以上にある。余るほどある。

[例文] まるで、あり余るエネルギーを持って余しているようだ。

No.178 『もはや』 ⇒すでに終わっていることを今あらためて認める気持ちを表す。今となっては。

[例文] もはや私にはどうすることもできない。

No.179 『おろか』 ⇒Aは言うまでもなくBにも範囲が及ぶという意味。

[例文] このままでは優勝はおろか、予選突破も難しい。

No.180 『ひよんな』 ⇒思いがけない様子。意外な。

[例文] お父さんは、ひよんなことから地元の少年野球チームの監督を引き受けることになった。